

第6回協議会での指摘事項と対応方針

No.	指摘事項	対応方針
	資料-1 名勝公園マネジメント計画について	
1	・1ページ目の左上、1.名勝公園マネジメント計画策定のプロセスの項で、「活用事業の保護・検討」とあるが、こういった意図なのか。	・洗足池公園の中では、色々な形でイベントや行事等の利用がある。例えば、「蛍のタベ」や「春宵の響き」があり、これらを活用事業と位置付けており、事業の継続・継承を図っていく。
2	・「2.ゾーンに対する視点の整理」で、「視点」という言葉を使っているが、一般的な言葉として「視点」は「観点」「着眼点」の意味がある。一方で、景観の用語としては、「どこに立って、どこに座って景観を見るか」という、その場所自体を指す。それらが混同した文章になっている。	・資料内での「視点」の記載は、いずれも後者の「どこに立って、どこに座って景観を見るか」を意図して使用しているが、読み手を混乱させないように、今後は記載方法を「観点」と「視点」で使い分けることとする。
3	・「ゾーン外の景観」とは、正しく言うと「ゾーン外への景観」や「ゾーンを越えた景観」であり、適切に表現した方がわかりやすい。	・用語については、あらためて整理し、「ゾーン外への景観」とする。
4	・シークエンス景観について、2ページ目の右側にアイウエとあるが、園路沿いの断面、水周辺環境の特徴の違いによって分けたことはわかりやすい。一方で、3ページに「ゾーンを横断した景観の連続性」と説明されているが、「ゾーン外の景観」との違いが分かりづらい。「シークエンス景観」の説明は、2ページの右側だけで良いように思う。洗足池公園は園路沿いに歩いていて、片側に池を見ながらぐるりと回る、単純なシークエンスなので、園路沿いの環境が変わることに注目して定義し、それらの繋ぎ方や統一性を考えていくべきだと考える。	・洗足池公園の景観を議論する場では、シークエンス景観のイメージ認識を「園路沿いの断面、水周辺環境の特徴の違いによって分ける」方式を念頭に置いて進め、次回資料で示す。
5	・4、5ページの取り組みの方針では、シークエンス景観について現状では記載されていないため、引き続き具体的に検討する必要があると思う。	・次回資料で、シークエンス景観について深度化を図る。

6	・公園外の「NODE からの景観」や公園内の「シーケンス景観」は、どちらも動線と結びついた考えだが、それらの間をどうやって繋いでいくのかは、今後検討されるということで良いか。	・ご指摘を踏まえて検討していく。 ・歩きながら、常に連続して池が見えるようにして、景観の連続性を保つようにする。
7	・「管理の方針」という表現では、「メンテナンス」を表していると誤解を招く。ストレートな表現として、「マネジメントの方針」でも良いのではないか。今年度から区のパークマネジメントマスタープランを作っていくと聞いているが、洗足池公園の「マネジメント計画」はその先駆けになるため、用語の使い方は注意する必要がある。	・取組内容等を記載した表について、「管理の方針」という表現を「マネジメントの方針」に変更して、今後使用していく。 ・パークマネジメントマスタープランとも整合を図っていく。
資料-2 水環境改善対策実施計画について		
1	・透明度はわかるが、透視度とはどうやって測るものなのか。	透明度は、30cmの丸い板を沈めていき、それを上から見て何mまで見えるのかを表し、透視度は、水を採取してメスシリンダーに入れ、底部の十字のマークが何cm離れて見えるかを表している。 ・両方とも水の透明さを測るものとして確立しているため、両方を用いて検証していきたいと考えている。
2	・透明度と透視度が比例関係にあるのであれば、調査するのはどちらか一方で良いのではないか。指標は少ないほど実用的と考えられる。	・先日、透明度を測ったところ、0.8～0.6m程度だった。夏季はプランクトンが非常に多く発生しており、冬季は水が透き通る傾向にあり、池底まで沈めても見える可能性があるため、透明度だけでは水質の向上を評価するのに不足だと考えている。 ・二つの指標の活用方法は、まだ検討段階にある。
3	・今回、検討されていた条件は「現状の半分」だが、もっと最適な条件が別にあるか。例えば「3分の1でも同じく影響がない」等はないものか。 ・もし、コストカットが目的であれば、より最適な条件があるかもしれない。	・ご指摘いただいたような可能性はあると考えている。昨年度の委託事業でのシミュレーション方法では、これ以上の詳細検討は難しかったが、今後、方法を勘案しながら更なる検証を試みる。

4	・覆砂はやってもらいたくない。水量の減少や生き物の環境への影響も心配である。	・覆砂は、費用と、将来の環境に対して心配な点がある。今回のシミュレーション結果を受け、他の方法（植生浄化等）を検討したいと思っている。
5	・何回か発言しているが、イケチョウガイを導入して水質浄化をするという話についてはどのようにお考えか、お聞かせ願いたい。	・イケチョウガイという貝を入れるという案は昔ご紹介したことがあり、保存活用計画の中に記載している。ただ、今まで全くいなかった生物を池に入れた場合の環境に対する影響について心配があり、今のところ、貝についてはシミュレーションしていない。
6	・以前、ヘドロを除去したこともあった。 ・この件についても、事務局にてさらに検討をお願いしたい。	・ しゅんせつ 浚渫は直接的な方法だが、浚渫作業自体の費用と、汚泥を処分する費用も掛かることが難点であるため、他の方法を検討している。
7	・コストについて言及があったが、具体的な金額が今後の検討材料になるため、いずれは必要な情報だと考える。	・コストについても、今後の検討では出来る限り具体的に調査し、資料に記載するようにする。
8	・大田区でグリーンインフラの整備事業を進めているが、その効果の1つとして、雨水の地下浸透がある。洗足池公園の周辺の風致地区や景観重点地区等の、いわゆる、まちづくりの中での調整によって、周辺を優先的に透水性舗装にしていくこと等ができないだろうか。洗足池の水質保全を考えていくことは大事なかなと思う。	・透水性舗装については、規模や範囲を定めるのが難しい。また、鉄道沿線のまちづくりとして検討しており、そのなかで透水性やグリーンインフラの視点が出てくると思うので、情報を公開していきたい。